

**山口県小学校長会報**

発行所  
山口県小学校長会  
代表者 吉鶴 修  
校長会 事務局  
山口市大手町2-18  
☎ 083-925-2919  
FAX 083-925-6776  
印刷所  
大村印刷株式会社

## 平成三十年度を振り返って



山口県小学校長会 副会長 村川直樹  
(岩国市立岩国小学校)

### 一 はじめに

昭和二十四年度に発足した本県小学校長会は、本年度七十年目を迎えた。この間、それぞれの時代に応じた課題を掲げ研修や情報共有を進めるとともに、二度の全国連合小学校長会研究協議会を開催する（昭和五十年年度、平成二十七年年度）など、着実な成果をあげてきた。吉鶴修新会長の下、十五支部、二百九十名の会員でスタートした本年度は、今日的で多様な課題を踏まえ、「生きる力」を育む教育を実現するため、「学校経営の充実」「研究活動の充実」「生きる力」の育成を目指す教育課程編成・実施・評価・改善」「教職員の資質能力の向上」「教職員の定数や処遇の改善」を重点として活動に取り組んできた。

### 二 研究の推進

五月八日に開催した第七十回総会並びに春季教育研究大会で、昨年度と同

様の研究主題・副主題を決定し、その趣旨に基づいて研究を進めてきた。十月二十六日に山陽小野田市で開催した秋季教育研究大会では、京都産業大学 教授 柴原弘志様に「『特別の教科 道徳』の全面实施を迎えてきた課題と成果」と題して御講演を頂いた。また、分科会では、研究領域別の十分科会で、担当各支部の提案発表を踏まえて少人数グループでの研究協議が行われ、校長の役割を明確にしなが

ら課題と成果が共有できた。なお、山口支部・防府支部の取組は十一月九日に行われた中国地区小学校長会教育研究大会島根大会において、それぞれ「危機対応」「社会形成能力」の二つの分科会で発表された。

### 三 研修の充実

各支部の研修活動との連携・連動を意識して、年間五回の理事会にテーマを定めた研修を位置付けている。数年

続いている基本テーマ「先見性のある学校経営」を引き継ぎ、年間テーマを新たに「学校リーダーとしての校長の在り方・生き方」として、講演や情報共有による研修を実施してきた。七月には、「校長会理事としての役割と責任を踏まえた校長としての生き方」と題して元鹿野町教育委員会教育長 上山忠男様に御講話を、十月には、「学校における危機管理と判例」と題して中山・石村法律事務所弁護士 中山修身様に御講話をそれぞれ頂いた。先哲の著した文献や教育実践に基づく深い洞察・見識、専門家ならではの具体的な事例と法令に基づく望ましい対応等に触れるとともに様々な示唆を賜り、校長として常に課題意識をもち学び続ける大切さを再認識した。

### 四 おわりに

社会がめまぐるしく動く中であって、来年度の改元を機に新たな教育信条を示すべく、中学校長会と連携をとりつつ見直しに着手し、作業を進めている。新学習指導要領への適切な対応が求められる一方で、教育の質の向上と時間外業務の縮減を目指した働き方改革の推進も喫緊の課題である。

このような時期であるからこそ、校長自身の研鑽とともに、各支部や中国地区校長会・全連小とのつながり、中学校長会・高等学校長会や地教委・県教委とのつながりが一層重要になってくる。新しい時代を切り拓いていく子どもを育成を図るためにも、心でつながる校長会の実現に努めたい。

**全連小報告**

ふるさと・挑戦・未来創造  
美祢市立綾木小学校  
石田 恭二

第七十回全国連合小学校長会研究協議会が北海道函館市で開催された。「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を大会主題として、二日間わたる研究協議が展開された。初日の分科会では、第一分科会「営ビジネス」に参加した。「創意と活力に満ちた学校経営ビジョンと校長の在り方」を研究課題にグループ協議を行った。参加したグループでは、校長の役割と指導性について、「リーダーシップ」「コーディネーター力」「価値付け」「見える化」の四つのキーワードでまとめた。

二日目のシンポジウムは、「ふるさと・挑戦・未来創造」をテーマに北海道に縁のある三名のシンポジストによって進められた。その中で特に心に残ったのは、スキージャンパーであるレジェンド葛西紀明氏の言葉「人と人とのコミュニケーションが大切である」「自分の夢は努力で叶える」であった。

「ふるさと」の地から世界を見つめ、新しい社会の形成に向けて挑戦する子どもを育てる学校経営について、多くの示唆を得ることができた。

# 研究紹介

## リーダー育成

### 「学校運営を担うリーダーの育成」

リーダーとしての資質と能力を高める組織づくりと研修の在り方

田布施町立田布施西小学校長

山崎 新一



ア企業トップのリーダー育成論の活用



研修会自主参加として「講師」育成若手教員へ

一 はじめに  
現在、社会はグローバル化、少子高齢化、知識基盤社会化などが同時に進む中、様々な教育課題が明らかとなりその対応が求められてきている。こうした中、教職員組織の中核となって実践的・主体的に学校運営に関わり、課題解決へ向けた取組を推進できるリーダーの育成が急務となっている。

そこで、本支部ではこの課題に対し、リーダー育成へつながる組織づくりと研修の在り方に視点を置き、校長としてどのような役割とリーダーシップを発揮すべきかについて研究を進めた。

### 二 研究の実際

- ① 郡校長会としての取組  
ア 育てたいリーダー像の明確化  
にそこに立ち向かい、全校的な視野に立って学校運営へ参画ができる人材
- ② リーダー育成に向けた校長研修

### ③ 教育委員会と連携した取組

- ア 若手教員育成の自主研修への参画による、リーダーとしての意識改革と資質向上
- (二) 各校での取組  
① 学校規模や特色に合わせたプロジェクト型組織づくりによるリーダー育成  
ア 主要プロジェクトのリーダーとして組織の中核となって学校運営に参画
- ② 個へのアプローチによるリーダー育成

### 四 成果と課題

- (一) 成果  
① 組織づくりの工夫における協働的な取組による、リーダーとしての意識と資質の向上  
② 個へのアプローチを中心とした様々な取組による、リーダー性の向上と学校運営参画意識の高まり  
③ リーダー育成における、具体的な方策についての情報共有と効果的な活用
- (二) 課題  
① チーム力強化と組織活性化につなげるための業務の効率化



研修の様子

# 研究紹介

## 自立と共生

### 「自立し、共に生きる力を育む教育の推進」

「共生社会」のもと、「持続可能な社会」の実現に向けた取組を推進する校長の役割と指導性について

宇部市立藤山小学校長

生田 光徳



(二) 「環境教育」充実に向けた取組

一 はじめに  
現在、世界では、多様な文化や価値観を有する人々との交流が急速に広がっている。こうした中、誰もが多様な在り方を認め合える「共生社会」のもとで、互いに協力しながら様々な課題に取り組み、将来にわたって安心して生活できる「持続可能な社会」に向けた教育の推進が求められている。

### 二 研究の実際

- (一) 研究の視座と重点の共有  
① 研究テーマの設定と研究計画立案  
ア 三部会「道徳教育」「特別支援教育」「環境教育」に分かれての研究を二か年計画で開始  
イ 今年度「環境教育」来年度「特別支援教育」に重点化



ダンボールコンポストづくり

② 学校教育での「環境教育」の実際と取組の工夫・充実  
ア 小学校共通の学習モデルプログラムの作成  
イ 環境問題から環境認識学習への転換  
ウ コミュニティ・スクールの機能を生かした展開  
エ 児童の主体的活動を促す工夫  
オ 小中一貫教育の視点に立った中学校区での協働取組の展開

ア 校務分掌への位置付けや個別の指導助言による育成  
イ 自己目標シート(面談)を活用した育成  
③ 学校評価書作成を活用したリーダー育成  
ア SWOT分析の手法を活用した、チームによる学校評価書作成による学校運営への参画

### 三 校長の役割

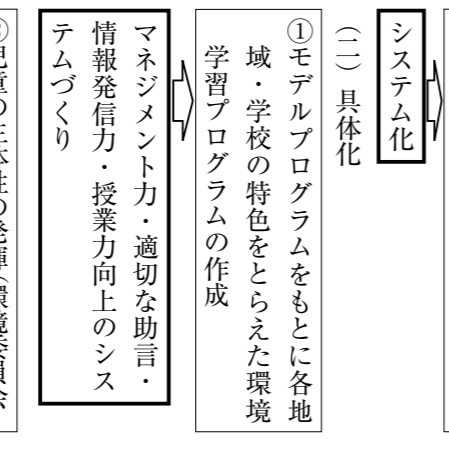
- (一) 他の関係機関と連携した研修の企画と参加の奨励  
(二) リーダーとしての役割の明確化と、主体的な学校運営への参画へつながる組織づくり  
(三) 個々の教職員のよさや課題の的確な把握と、適切な指導助言

② 課題発見力、指導力、人間力等リーダーとしての資質を磨く機会の設定  
五 おわりに  
学校運営を担うリーダーとして育成すべき中堅教諭が不足している今、ベテラン、若手を含めた幅広い年齢層でのリーダー育成が急務となっている。こうした中、郡校長会で取り組んできたリーダー育成のための研修や組織づくり、個へのアプローチの工夫といった具体的な取組を通して、リーダーとしての資質向上や意識の高揚は図られた。特に、リーダーとしての学校運営参画意識の向上については、取組の手応えを感じている。

一方、研修の増加や、組織改編によるリーダーとして育成する人材への負担増は避けて通れないところがある。この点については、業務の効率化や、成果の明確化などにより負担をできるだけ減らすとともに、「負担感」の軽減にも努めていかなければならない。今後も、手本となるべきトップリーダーである私たち校長自身が資質向上に努め、各校の実態に応じた積極的なリーダー育成につながる取組を進めていきたい。

### 三 校長の役割

- (一) 視点の共有  
① 市や地域の環境に係る歴史と未来への展望の理解  
② 学校としての「視点と方向性」の明確化・共有  
③ 環境教育に主体的に取り組むための組織づくり
- (二) 具体化  
① モデルプログラムをもとに各地域・学校の特徴をとらえた環境学習プログラムの作成  
マネジメント力・適切な助言・情報発信力・授業力向上のシステムづくり  
② 児童の主体性の発揮(環境委員会・エコクラブなどの活動)  
人を育てる力・人をつなぎ動かす力  
③ 連携・取組の推進(教職員はもとより、児童・家庭・地域・同一中学校区内での協働)



### 四 成果と課題

校長の指導性の発揮により、上記三の「(二) 具体化」の取組が推進されている。特に環境学習モデルプログラムは、市環境政策課や大学・地域と共同で開発したものであり、プログラム中の環境学習コンテンツを多くの学校で活用している。コミスタの機能を生かし校区コミュニティとタイアップした取組の推進も進み、過去から未来へと「持続可能な社会」をつなぐ一員としての自覚は、ふるさとを愛する心の育成にもつながっている。新学習指導要領のもとカリキュラム編成は課題となるが、だからこそ、「環境教育」に命を吹き込み、視点と方向性をもたせる校長の指導性が期待されるところであろう。



食品リサイクルの見学

### 五 おわりに

環境学習は、「自分のために・みんなのために・未来の誰かのために」「何がしたいか・何ができるか」を考える学習。だからこそ環境学習は、心を耕す学習・未来を創る学習と言える。「総合的な学習の時間」開始以来、ひよつとしたら各校の中でカリキュラムが散らばっていたり、少し理もれ気味なこの学習に「心の学習」の視点で光を当ててみてはいかがだろうか。「ESD教育」に重なる視点である。それが校長の役割かもしれない。

# 研究紹介

## 経営ビジョン

先見的で創意あふれる学校経営ビジョンの策定と周知

特色ある学校教育の推進に向けた  
校長の役割とリーダーシップについて

山陽小野田市立小野田小学校長

今 本 美智子



### 一 はじめに

本市では、特色ある学校教育の推進のために、三つの柱（生活改善・学力向上）「地域力・学校力・家庭力向上」を掲げている。そして、市内全ての小・中学校が各校の実態に合わせ、これらの柱を学校経営ビジョンの中に取り入れ、様々な角度から目標達成に向けて取り組んでいる。

そこで、本支部では、特色ある学校教育推進のために、この三つの柱を視点として、校長としてどのような役割とリーダーシップを発揮するべきかについて研究を進めていった。

### 二 研究の実際

(一) 生活改善・学力向上プロジェクトの推進

① 基本的な生活習慣の徹底と健全育成のために、小中連携により生活目標を設定するとともに、熟議による啓発を行う。

### 三 校長の役割

(一) 児童・教職員・地域の実態把握と様々な角度からの情報収集

- ① 学校評価や各種会議での情報交換
- ② コーディネーターとの連携
- ③ 開かれた校長室
- (二) 校長としての信念・決意の明示と、目標達成に向けた具体的方策の提供
- ① ○○小スタンダードの提示
- ② 校長室便りの作成・配付等

### 四 成果と課題

(一) 成果について

- ① 地域・家庭・学校が連携することで、マンパワーが充実し、積極的な学校経営を行うことができるようになった。
- ② 地域とともにある学校づくりの基礎を作っていくことができた。
- ③ 教職員の意識を改革していくことで、学校を一つの組織として考え、積極的に実践していく教職員が増えた。
- (二) 課題について
- ① 保護者の参画意識を更に高めていく必要がある。
- ② 業務改善の視点から、活動自体を見直したり、活動の仕方を工夫したりする必要がある。
- ③ 教職員の意識改善は、時間がかか

### 五 おわりに

先見的で創意あふれる学校経営ビジョンを策定するに当たって、まず大切にすべきことは、「本市がどういう学校教育を推し進めたいかを、校長としてしっかり把握することである」という共通認識のもと、この共同実践は始まった。

校長会として、本研修に取り組んだことにより、校長同士のコミュニケーションがより活発になり、校長としての役割や課題等も忌憚なく言える組織になったことは、今後の大きな財産になった。



まずは、声出しから～朝のモジュール学習～

# 研究紹介

## 運営・組織

学校経営ビジョンの具現化を図る組織づくりと運営

活力ある組織づくりに向けた  
校長の役割とリーダーシップについて

下関市立神玉小学校長

岡 本 香



### 一 はじめに

今日、社会の加速度的な変化に柔軟に対応し、学校経営ビジョンに沿った教育を組織的・計画的に展開するためには、校長は教職員に対して学校経営ビジョンを明確に示し、リーダーシップを発揮しながら、建設的で活力のある組織づくりを推進していく必要がある。

そこで、本支部では、学校経営ビジョンの具現化を図るための「活力ある組織づくり」に向け、校長の果たすべき役割について研究を進めていくこととした。

### 二 研究の実際

(一) 研究の方向付け

- ① 研究の趣旨の共通理解（熟議「活力ある組織とは」）
- ② アンケート実施と分析（「活力ある組織づくりに係る実態と課題」）
- ア 小規模校における課題
- イ 経験年数別職員の割合や構成メンバーによる課題

ウ 個人の資質に関する課題

工業務改善に係る課題

③ 講演を通じた研修（「活力ある組織づくりとマネジメント」）

(二) 「キャリアアステージごとの人材育成の工夫」についての協議

① 採用時

ア 見通しと楽しさの実感

イ 社会人としてのマナー指導

② 若手

ア 目標設定と授業力の向上

イ スモールステップでの承認と価値付け

③ 中堅

ア 若手の育成

イ 強み生かす研修

④ ベテラン

ア 変わることへの挑戦

イ 学校評価の分析を通じた学校運営への参画

(三) 「活力ある組織づくりの仕掛け」についての協議

① ビジョンの浸透

ア 校長の自己目標シートの提示

(三) 目標達成に向けた組織作りと教職員の意識改革

① 各主任を中心に機能する組織を作り、助言する。

② 外部からの声を届ける。（復伝等も含む。）

(四) PDCAサイクルを機能させることによる、適切な進捗管理と、各活動の価値付け

① 課題だけでなく、成果も共有できるようにする。

(五) 積極的な情報発信と様々な機関との連携

イ チャレンジ目標の評価

② 参画意識の高揚

ア 校務分掌のプロジェクト化

③ 家庭・地域との協働

ア 児童や教職員の変容の紹介

(四) 人材教育実践例の共有

① のびのび会（ユニット型研修）

② ベテラン育成1000日プラン

③ 校内巡回ツアー

④ 研修プランニングシート

⑤ 下関市教委作成「育成指標チェックシート」

### 三 校長の役割

(一) 的確な実態把握に基づいた学校経営ビジョンを作成し、日々の教育活動が何のためにどこを目指しているか分かるように説明する。

(二) これまで身に付けた能力や今後必要となる能力について、育成指標を活用して示し、キャリアアステージ

に応じた資質が身に付くよう、校務分掌配置や人材配置、研修の提供を考える。

(三) 個々の能力をチームとして運用できるよう、協働型組織運営に向けてマネジメントする。

(四) 外部の力を借り、多様な対応を探り連携推進を図る。

### 四 成果と課題

(一) 成果

- ① 人材育成に関する学校規模別、教職員世代別の課題の明確化
- ② 人材育成のための具体的な取組の

る場合が多い。継続的な取組と成果の共有が必要である。

イメージ、効果的な実践の共有

(二) 課題

① 学校規模によるビジョンの設定や組織の効率化

② 計画的な人材育成を意識した人事異動への働きかけ

③ 学校運営充実のための時間の確保と働き方改革の推進

### 五 おわりに

今回の研究を通して、活力ある組織づくりには、人材の育成が不可欠であることが再確認できた。

中でも、個々がどう伸びていきたいのかという思いを受け止め、各キャリアアステージを見通したプランニングを支援していくことは、校長としての大きな役割であると考えられる。教職員一人一人と、ともに考え、関わってほしいと思う。

時代の変化を見通し、教職員一人一人の資質能力の向上を図りながら、その能力をチームとして運用するマネジメント力を発揮し、子どもたちにとって、よりよい教育の場をつくってきたい。



グループ別の研修

# 研究紹介

## 豊かな人間性

### 「豊かな人間性を育む教育の創造」

学校経営における四つの視点からのアプローチ

萩市立むつみ小学校長

中村 知史



#### 一 はじめに

多くの学校で、豊かな人間性を育むため、学校教育目標やチャレンジ目標などにその方向性を示し、教育活動全体を通じて道徳教育や人権教育を推進している。

その中で、本支部では、豊かな人間性を育むために、重要な学校経営における四つの視点（カリキュラム・マネジメント、授業の充実、人材育成、連携）を中心に研究を行うこととした。また、その視点に沿った校長としての役割と指導性をチェックリストにまとめながら、各校の実情に応じた実践、取組につなげていった。

#### 二 研究の実際

- (一) 本支部校長による「豊かな人間性育成」に関するアンケート調査の実施
- ① 児童・学校・地域の実態
- ② 校長として、課題と感じていること、大切にしたいこと

- ③ 教育ビジョンや学校経営方針への位置付け
- (二) 四つの視点によるグループ別研究
- ① 道徳教育・人権教育を基盤としたカリキュラム・マネジメントの在り方
- ② 道徳教育・人権教育など、充実した授業の在り方
- ③ 道徳教育・人権教育など心の教育の推進に向けた人材育成の在り方
- ④ 豊かな人間性を育むための家庭、地域、学校間、関係機関との連携の在り方
- (三) 「豊かな人間性を育む学校経営 T O D O チェックリスト」の作成
- (四) チェックリストに基づいた実践事例の蓄積



萩・阿武校長研修会

#### 三 校長の役割

- (一) 学校経営ビジョン、道徳教育・人権教育推進の基本方針を全教職員と共有し、豊かな人間性を育むカリキュラム・マネジメントを組織的に進めること
- (二) 校内研修や授業研究の充実を図り、「特別の教科 道徳」などの授業改善と全教職員で取り組む体制を整備すること
- (三) 心の教育の推進に向けた計画的、組織的な人材育成を図ること
- (四) 家庭、地域、学校間、関係機関と連携した実践的な取組の推進を行うこと

#### 四 成果と課題

- (一) 成果
- ① アンケート調査の結果をもとに本支部の小学校における実態や課題を明確にするとともに、四つの視点に着目して、「T O D O チェックリスト」を作成し、本支部の全小学校が同じ視点で学校経営の振り返りを行い、豊かな人間性を育むため、校長としての役割や指導性が確認できたこと
- ② チェックリストを基に、各校の校長同士の視点が共有できていることから、実態や課題に応じた他校の事例を参考にしながら、自校のより良い実践や取組の改善につな

- げることができたこと
- (二) 課題
- ① 「社会に開かれた教育課程」の実現に向け、全教職員の意識改革を一層図り、組織的・主体的にカリキュラム・マネジメントを行い、豊かな人間性の育成を図ること
- ② 道徳教育や人権教育担当者の育成や資質向上を図るため、学校の実情や規模に応じた取組を工夫したり地域との連携を深めたりして、計画的、組織的な人材育成のため校内体制を整えること

#### 五 おわりに

分科会では、本支部が作成したチェックリストを使って、各学校の取組を振り返ってもらった。その中で、最も課題としてあがった視点は、「カリキュラム・マネジメント」であった。本支部が重要と考えた四つの視点は相互に関連し合うものでもある。家庭や地域と連携しながら、組織的にカリキュラム・マネジメントを進めていくことは、授業の充実、人材育成にもつながることになる。校長としてビジョンや方向性を明確に示しながら、豊かな人間性を育んでいきたい。



県校長会 第3分科会

# 研究紹介

## 健やかな体

### 「健やかな体を育む教育の創造」

睡眠を中心とした生活習慣マネジメントを推進する校長としての取組について

長門市立通小学校長

富田 紀子



#### 一 はじめに

本支部においては、ふるさとの童謡詩人 金子みすゞの優しいまなざしを教育の基調とした長門市「学園構想」の下、コミュニティ・スクールと地域協育ネットを車の両輪として位置付けた小中一貫教育を推進している。

急激に変化していく世の中に対応していくためには、まず心身の健康が基となる。そして、子どもたちが社会に出たとき、自らの健康をマネジメントできるように、その素地を養っておくことは非常に重要である。生涯にわたってよりよい生活習慣を身に付ける、自らマネジメントすることができるともたちは、高い自己肯定感を維持し、たくましく未来を拓いていく力を持ち続けられるのではないだろうか。

本市では睡眠を中心とした生活習慣マネジメントを全ての小学校、中学校、高等学校で取り上げ、子どもだけでなく家庭にも働きかけたことで生活習慣が整い、学力向上や体力向上に一定の

成果が見られた。この成果を継続させ、さらに習慣として定着させるための校長としての役割や指導性について追求し、今後の取組の改善・充実に生かしていきたいと考えた。

#### 二 研究の実際

- (一) 市全体での「睡眠を中心とした生活習慣マネジメント推進（市教委作成）」の活用
- ① 中学校、高等学校での取組
- 生涯学習の立場から生徒や保護者への周知
- ② 小学校での取組
- 参観授業及び家庭教育学級、学校保健安全委員会への位置付け
- (二) 生活習慣マネジメントを、学力向上、体力向上に結び付けるための方策
- ① 生活習慣アンケート（共通）の全小学校実施及び追跡調査
- ② 生活習慣アンケートの結果分析
- 子どもの生活習慣についての保

#### 三 校長の役割

- (一) 睡眠を中心とした生活習慣マネジメントを定着させるための組織づくり
- (二) 長門市「学園」の仕組みを活用した取組
- ① 中学校との連携
- 中学校区で目指す子ども像の設定
- ② 学校運営協議会の活用
- 地域で取り組むための仕掛け
- (三) 関係機関や地域を生かした気になる家庭や児童への働きかけ

#### 四 成果と課題

- (一) 成果
- ① 「生活習慣マネジメント学習」のカリキュラムへの位置付け
- ② 児童の意識改革促進にともなう保護者の意識の変容
- ③ メディアに関わる研修機会の増加
- ④ 学習習慣への好影響
- (二) 課題
- ① 家庭への継続した働きかけ
- ② 運動習慣づくりにつなげる意識付け

#### 五 おわりに

本研究において市内全ての小学校が、それぞれの学校の特色を生かしながらも「睡眠を中心とした生活習慣マネジメント力」を子どもたちに付けるために同一歩調で取り組めたことが一番の

#### 成果であった。

家庭との連携をどのように続け、深めていくかが大きな課題だが、校長の最大の役割は、何を家庭に伝え、どのように家庭に仕掛けていくかというコーディネートすることである。この役割を遂行するに当たって、校長同士が情報を共有し、市内全ての学校が力を入れて取り組んでいることを、家庭や地域に情報発信したことは、ネットワークが発達した今の現状を考えると非常に有効であった。これからも、チーム長門の一員として校長同士の連携を密に取りながら、校長としての使命を果たしていきたい。



研究協議の様子

◆ 研究部 ◆

「拡散」から「収束」に向けた研究への取組

研究部長  
兼 重 光 雄



(周南市立遠石小学校)

全連小では、二〇二〇年度からの新学習指導要領の完全実施を見据え、これまでの研究主題「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く、日本人の育成を目指す小学校教育の推進」を七年間継続し、現在六年度を迎えている。本年度は、来年度「収束」するこれまでの研究の成果と課題を整理するため、副主題については昨年度と同様、「社会の変化に挑み 高い志をもって 未来を切り拓いていく子どもを共に育てる学校経営の推進」として設定し、研究の質の向上に努めてきた。

本年度の秋季研究大会は、山陽小野田市で開催された。五領域十分科会では、担当支部の研究発表及びグループ別研究協議が活発に行われた。各支部においては、支部全体が共通理解・共通認識に立ち、組織的かつ各学校間の連携を図りながら研究を進められており、支部としての成果と課題を共有されていた。そのため、各分科会での協議は具体的な意見のやり取りが行われ、分科会の充実が感じられた。また、分

◆ 対策部 ◆

未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向けた提言を

対策部長  
藤 永 靖 彦



(山口市立白石小学校)

知識基盤社会への新たな進展やグローバル化の進行、世界に類を見ないスピードで進む少子高齢化により、先を見通すことが難しい時代になってきた。小学校では進行する教育改革への対応、いじめ・不登校を始めとする児童の健全育成への取組など、教育課題は山積している。また、学校における働き方改革の推進が求められている。

こうした状況を踏まえ、全連小では「自らの使命を自覚し、未来を見据え創意ある展望と計画の下、確かな実行力をもつ校長会」として全力を尽くしていくことが第七十回総会において確認されたところである。本県においても山口県教育振興基本計画が策定され、未来を拓くたくましい「やまぐちっ子」の育成に向け、本年度も各支部の校長先生方の貴重な御意見を参考にし、提言書の作成に取り組んできた。また、中学校長会や各関係団体と連携しながら、教育行政と学校が力を合わせて

山口県教育を充実させるという視点で提言書を作成した。この度の提言書では、「働き方改革」を新たな課題ととらえるとともに、「人材育成」を強調しての提言となった。

内容は「教職員の確保と配置の工夫(少人数指導・複式学級)」「特別支援教育の充実(地域コーディネーター・通級指導体制)」「今日的な課題に対応できる研修機会の充実と確保」「二・三年次教職員や一人職の研修の充実」「外国語教育の充実」「高い専門性と指導力を備えた教職員の育成」「やまぐち型地域連携教育の推進のための人的配置」「業務改善の推進」など、多岐にわたるものであった。

これらの内容は県教委が重点的に推進している「学習指導の改善・充実」や「教職員の資質能力の向上」、「地域と学校が連携した子どもの育成」などを踏まえるとともに、五年後、十年後のよりよい学校づくりを念頭においている。今後も教育行政とともに知恵を出し合い、関係諸団体と連携して、小学校長会としての提言を行なっていきたい。

◆ 広報部 ◆

有益な情報の発信、共有を目指して

広報部長  
井 上 光 晴



(下関市立向井小学校)

「校長は自らの使命を自覚し、未来を見据え、創意ある展望と計画の下、確かな実行力をもって信頼される学校作りをめぐる」と吉鶴会長が提言された。広報部ではその具現化を図るために、次の五つの努力点を掲げ、広報誌「会報」と機関誌「歩み」の編集・発行に向け、二つの編集委員会を組織し取り組んだ。

- 一 会員に親しまれ、役に立つ「会報」「歩み」の作成
- 二 各支部の創意ある教育活動や「志」を育む学校運営の紹介
- 三 本会の活動方針の浸透と活動内容の周知、及び情報活動・速報活動の充実
- 四 本会ホームページの周知と活用
- 五 全連小広報活動への協力・連携

今年度は、昨年度までの反省を基に、より効率よく二つの委員会がその責務が遂行できるよう、委員の配分を変更し、業務を行ってきた。また、「歩み」の編集作業においては、三グループで割当を分担し、より短時間で校正が行

えるように変更した。また昨年度作成した、「新用字用語例」に基づいて「会報」「歩み」を発行することを全会員で共通理解し、統一した表記になるよう校正等に取り組んだ。さらに今年度は、本会創立七十周年というところで、「歩み」に、「歴代の校長会長の手記等を中心としてこの十年間の取組を振り返る」という内容の特別コーナーを設け、記念誌とした。

全連小では、小学校教育振興のための「教育研究シリーズ」「小学校時報」「全国特色ある研究便覧」等を発行したり、特色ある学校のホームページを掲載したりしている。お忙しい中、執筆等に御協力頂いた皆様、心よりお礼を申し上げます。今後、会員の皆様方にとって役に立つ、そして、会員相互の情報共有の場となるような広報誌・機関誌を目指し、内容の充実を努めてまいりたい。そのためにも、広報部の活動に御理解と御協力をお願いしたい。

各 専 門 部 か ら の 報 告

◆ 調査部 ◆

今年度の調査活動から

調査部長  
兼 重 彰 洋



(美祿市立大嶺小学校)

調査部では、県小学校長会の活動方針に基づき、「調査処理委員会」と「経営管理委員会」の二委員会を構成し、継続的な教育調査と当面する課題究明のための調査研究を行った。両委員長を中心に、各部員の調査・集計、さらには両委員会において、調査結果をもとに分析・考察を行った。まず、市町教育費調査であるが、

各市町の財政については、今後も厳しい状況が予想される。教育の質の維持・向上に向けて、県校長会として教育費の確保に積極的な働きかけを行うとともに、全教職員のコスト意識を高め、効果的な運用を行っていくことが必要であると考えられる。

次に、次年度の学級編制及び教職員配置調査についてであるが、今後も児童数は減少し、若手教職員は増加する傾向にある。また、特別な支援を要する児童が通常の学級に多く在籍している現状も見られる。学校が組織として教育の質を一層高め、学校経営の安定化を図るため、地域

や学校の実情を踏まえた必要かつ適正な教職員の配置が強く望まれる。よりよい学校経営に関しては、「学校における安全対策と危機管理」を学校経営上の重要課題ととらえている校長が最も多かった。記録的な豪雨や猛暑などの自然災害や、学校のブロック塀の倒壊事故等への早急な危機対応が重要視されていることが推測される。

教職員へ指導を図るべき内容では、「指導法・評価法を含めた授業改善」が最も多かった。新学習指導要領の実施に伴い、児童の学力向上や主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に各小学校で力を入れていることが分かる。

子どもたちを取り巻く社会環境が大きく変化する中で、各学校が抱える課題も多様化してきている。こうした中、校長が明確なビジョンをもち、リーダーシップを発揮して、学校・家庭・地域の連携・協働による学校課題の解決はもとより、子どもたちの未来を見据えた教育を推進し、学校経営の充実を図っていく必要性を強く感じている。

支部情報

岩国・和木支部

小中一貫教育の充実を目指して

岩国市教育委員会では「心の豊かさ  
と生き抜く力を育む教育文化のまち」  
の実現に向けて「志高く、豊かな心と  
生き抜く力を育む」を基本目標に掲げ  
ている。

これは、次代を担う子どもたちが心  
豊かに成長するためには、一人の自立  
した人間として志高く、力強く生きて  
いくとともに、人の心を思いやるなど、  
総合的な力を育むことが必要である  
という理念のもとに制定されている。

学校教育では、この目標を達成する  
ため「開く」「創る」「研く」「育む」  
をキーワードに夢と愛と力を育む特色  
ある施策が実施されている。

その中の一つとして小中一貫教育が  
ある。岩国市には学校規模や周辺環境、  
地域性が異なる十四の多様な中学校区  
があるが、二〇二〇年度より、全ての  
中学校校区で小中一貫教育がスタート  
する。

小学校長会でも、この流れを受けて  
今年度の研修課題を「学校の教育力向  
上を図る組織的な研究・研修の推進」  
とし、地域連携や小中連携の視点から

研究・研修の推進についての成果や課  
題を分析することで、校長の役割を明  
らかにしていくこととした。その成果  
は先日、県校長会第五分科会で発表し  
たとおりである。校長会での研修は月  
一回のペースで行われ、課題研修の他  
に一般研修として、「道徳科の評価」「業  
務改善」「災害時の対応」など時機に  
あったものが行われ、新任校長にとっ  
ては、貴重な情報収集と先輩方の学校  
経営を学ぶ有用な時間となっていた。

さて、十一月には「やまぐち小  
中一貫教育実践発表会 in 和木・  
岩国」が開催され、各校区での成  
果・課題を明らかにしたところであ  
る。今後も「小中一貫教育のさ  
らなる充実」を共通の目標として、  
校長会においても、校長としての  
マネジメント、リーダーシップの  
在り方について研鑽を積んでいき  
たい。



やまぐち小中一貫教育  
実践発表会in和木・岩国

(小瀬小学校 川西真理)

支部情報

山口支部

「危機対応」から  
「社会形成能力」へ

山口市は本年度より教育目標として  
「やまぐちのまちで育む ふるさとを  
愛し 豊かな心と健やかな体で  
未来を生きぬく子ども」を掲げ、  
「知力」「徳力」「体力」「コミ  
ュニケーション力」の四つの力を  
育んでいくことを目指している。  
さらに、四つの力を身に付けてい  
くことにより、将来に夢をもち、  
その夢に向かって自分自身でその  
未来を切り拓き、しっかりと生き  
ていける子どもを育むことを目指  
している。

山口支部は、附属山口小を含む  
三十四校で組織され、月一回の定  
例校長会を実施している。定例校長会  
では、八人の研究部員が推進役となり  
秋季教育研究大会での提案領域の研究  
に取り組んできた。今年度の領域は「危  
機対応」である。「コミュニケーション・ス  
クール等を活用した地域との協働」「山  
口県独自の体験学習法である「AFP  
Y」を活用した人間関係づくり・授業  
づくり」「教育委員会等との連携」の  
三つの視点から実践・研究を進めてき

た。鑄銭司小の深井校長がその成果を  
まとめ、全連小北海道大会、中国地区  
島根大会において提案発表を行った。  
また、県秋季教育研究大会では、阿知  
須小の福屋校長が提案発表を行い、県  
内の校長先生方より貴重な御意見を伺  
うとともに、指導助言を頂くことがで  
きた。

今年度は三つの発表を無事に終える  
ことができたが、来年度の提案発表に  
向けた準備がすでに始まっている。来  
年度の領域は「社会形成能力」である。  
そこで、「コミュニケーション力の育成」  
「キャリア教育」「地域連携」の三つ  
の部会を設け、部会ごとに各校の実践  
を持ち寄り、研究協議を進めている。

また、恒例となっている講師を招聘  
しての研修では、サマンサジャパン株  
式会社代表取締役会長 小野英輔様を  
講師に招き「学校教育に期待するもの」  
と題して、経営者から見た日本の現在  
と未来、「人財育成」の方策等につい  
てお話を伺  
うことがで  
きた。「社  
会形成能力  
育成」の課  
題解決に向  
けて多くの  
示唆を得る  
ことができ  
た。



(八坂小学校 山本浩之)



『希望の朝だ 手をとって  
ともに励み 成長を喜ぶ  
安小の子の育成』。これが  
本校の学校教育目標である。

校歌一番の歌詞の一節から作られたもので、  
親しみやすく、教職員はもちろん、児童や  
保護者にもよく定着している。

『希望の朝だ』には、「今日一日、楽し  
かった」「明日はどんな一日になるのだろう」  
という明日の学校生活を待ちわびる思いが  
込められている。学校は子どもにとって、  
安心・安全で楽しい場所であればならな  
い。保護者が安心して子どもを送り出せる  
場所であればならない。そして、我々教  
職員にとっても学校は希望の職場でなく  
はならない。

周防大島町は、青く澄み切った空と海、  
山々の緑、みかん畑のオレンジ色に象徴さ  
れるように豊かな自然に恵まれた美しい町  
である。そこに暮らす人々は、とても人情  
味に溢れ、子どもたちは純真純朴である。  
素晴らしい教育環境のもとで教職に携わる  
ことができることに感謝し、誇りをもって  
日々を過ごしてきた。

ところが、かつてない重大な危機が町を  
襲った。十月二十二日に発生した大島大橋  
への貨物船衝突事故である。以後、四十日  
間にわたる断水と橋の通行規制により、不  
自由な生活を余儀なくされた。学校はいか  
なる時にも安心・安全な場所であってはな  
らないことから、「こんな時だからこそ」  
を合言葉に、①安全管理・衛生管理の徹底  
②当たり前であることへの感謝 ③思いや

り(優しさ・親切)の心 ④チーム安小の  
底力 の四点について教職員と共通理解し、  
ピンチをチャンスととらえた指導を継続し  
てきた。毎朝一番に、トイレの水をプー  
ルから運んだり、手洗いの水を給水所から運  
んだりするのは正直大変だった。給食も一  
か月近く簡易なものが続いた。保護者や地  
域からも心配する声が上がったが、子ども  
たちは事故前と同様、  
いつも笑顔で元気いっ  
ぱいに毎日を過ごして  
いた。逆に当たり前であ  
ることへの感謝の気  
持ちや相手を思いやる  
こと、力を合わせて協  
力することなどを学ぶ  
絶好の機会になった。

節水や節約について  
親子で話し合った児童  
毎日ポリタンクの水を  
運ぶ手伝いをした児童  
低学年の児童がトイレ  
を済ませた後の処理で  
困っていたのを見て、  
代わりに水を流してあ  
げた高学年の児童、毎日池の水を如雨露に  
汲んで花壇への水やりを続けた児童など、  
心温まる成長のエピソードがたくさん生ま  
れた。

安小の安は安心・安全の安である。これ  
からも子どもにとことん寄り添う姿勢を大  
切にし、共に励み、互いの成長を喜び合え  
る子どもに育てていきたい。

安心・安全で楽しい学校づくり  
周防大島町立安下庄小学校長 岩田 宏 明

飛耳長目

「学力の保障と愛情の貯金」  
を理念とした学校経営

光市立室積小学校長 水品 英之



今年度着任した室積小  
学校は、光市の南東にあ  
り、北側にはなだらかな  
山容の千坊山が座し、南  
側は室積湾と海水浴場として賑わう室  
積海岸に面している。殊に、峨嵋山を  
擁す象鼻ヶ岬一体は、瀬戸内海国立公  
園にも指定される風光明媚な観光地で  
ある。

BC Aあいさつ Bビューティフル  
美しさ Cカバー 助け合い」に取り  
組んでいる。ねらいは、日頃の学校生  
活において「凡事徹底」であり、「凡事」  
とは当たり前のことを当たり前にし、  
心を整えて落ち着いた学校生活を送る  
ことである。すなわち、あいさつ・清  
掃・はきもの揃えといった生活面はも  
ちろん、人間関係においても、学習面  
においても、「凡事」を疎かにしない  
で行動化していくことに重点を置いて  
指導している。また、私は、校長として  
一校を預かる立場になり、常に「学力  
の保障と愛情の貯金」を理念として教  
職員とともに学校運営を実践してきた。  
中でも次の三点を意識して取り組んで  
きた。

- 一 課題を明確にし分かりやすく周囲  
に伝える。
- 二 それを実現するための手立てを組  
織で考え取り組む。
- 三 評価・改善(検証)をその都度組  
織で行う。

学校運営の中心は校長である。校長  
が率先して動き、周囲の声に耳を傾け  
ながら一緒に進めていくことを忘れて  
はいけない。キーワードは、本校の合  
言葉でもある「チーム室積小」である。  
最後に、「最高の教師は心の灯に火  
をつける」という言葉がある。私は校  
長として子どもたちのために教師の心  
の灯に火をつけながら、教職員とも  
に学校運営に邁進していきたい。

周南市在住の山本昇治さんは、氣象予報士として二〇〇六年から山口放送株式会社で天気予報を担当されています。氣象との出会いや氣象解説で心掛けていること、そして、ふるさとへの想いや子どもたちへのメッセージを伺いました。

**\*幼少期から高校生までを柳井市で過ごされていますが、どんな子どもでしたか。**

小さい頃から天文・宇宙に興味があり、小学生の時に初めて部分日食を見たのを、今でも鮮明に覚えています。星を見るのは大好きでしたが、天気は左右されるということから、次第に天気に興味が移っていきました。

中学生の頃は、テレビに映る天気予報の画面、特にどのように天気を予測して、どうやって伝えているのかに興味がありました。テレビや新聞などの天気図を見るのはもちろん、各地の天気や気温、気圧の情報をラジオで聞きながら、白地図に天気図を描き続ける子どもでした。そして、新聞の天気図と答え合わせをして楽しんでいました。ちょっとしたマニアのような気がしますが、それが今の原点のような気がします。

**\*現在、一日に約四本のお天気コーナーを担当されています。氣象解説をする際に心がけていることは何ですか。**

「分かりやすい氣象解説」というのが一番です。どうすれば分かりやすいかというのが腕の見せどころでもあります。基本としてあるのは、自分が納得して伝えるということです。自分がちゃんと理解していないのに人に伝えることはできません。さらに、情報を伝えるということだけなら文章を書いて読めばいいことなのですが、天気予報の情報を届けただけでなくしっかりと活用してもらいたいと思っています。だからこそ、皆さんの心に響く天気予報にはどうしたらよいかを、できる限り考え、伝えるのではなく伝わるように心掛けています。

探訪シリーズ

この人 この歩み

人々の心に響く 天気予報  
“伝えるのではなく  
伝わるように”



山口放送株式会社  
氣象予報士 山本昇治さん

るように心掛けています。

**\*現在は周南市在住ですね。ふるさとで活動されていることへの想いを聞かせてください。**

天気予報を活用している人たちは、ピンポイントでその土地の天気予報を知りたいと思っています。それに応え

るためには、天気予報をどう見せたらよいか、どう伝えたらよいか。その環境が整っていたのが、地元だったのです。地元だからこそ土地柄を知っていますので、やりがいをもって仕事ができます。自信をもって伝えることができます。ローカルに特化し、これからも仕事をしていきたいと思っています。

**\*子どもたちにメッセージをお願いします。**

子どもたちには、ぜひ天気アンテナを向けて欲しいと思いますが、天気に限らず興味あるものをもつて欲しいと思います。「自分は何か好きなのか」「自分は何がやりたいのか」「興味あるものが、世の中にどうつながり役立っているのか」を考えると、そこから、きっと世界が広がります。私は、仕事に慣れることがあっても、飽きることはありません。これからも、視聴者に天気予報を分かりやすく伝えていきたいと思っています。

編集後記

「平成」最後の年度が終わろうとしている。教育界では新学習指導要領の実施に向け、詳細が次々と具体的に示されてくるなど、新たな時代の到来を感じる。社会に開かれた教育課程の実現や主体的・対話的で深い学びのある授業への改善等、各校においては会員の皆様の強いリーダーシップのもと準備に余念がないと拝察する。

多忙を極めている皆様の力をお借りして、本年度も無事に年二回「会報」を発行することができた。「研究紹介」「支部情報」では、課題解決に向けた先見性と特色のある各支部の取組や活動を、「飛耳長目」では、会員の教育に対する熱意や保護者、地域に対する思いを感じる事ができた。また、「新校長の声」では、新任校長のフレッシュな決意の声を、さらに「この人この歩み」では、県内の様々な分野で御活躍の方の熱い思いや御示唆を頂くことができた。今年度は編集委員が減じ、五名の委員で、各支部における素晴らしい取組や熱い思いを、会員の皆様にお届けするとともに、つないでいく役割を大切にしたいという強い思いで発行に向けて編集に取り組んだ。

おわりにあたり、御多用にもかかわらず、原稿の執筆を御快諾くださり熱心で作成頂いた皆様に感謝の意を表し、編集後記としたい。

山本さんは氣象予報士として、四季折々の植物や生物と暦を結び付けていらっしやいます。子どもたちにもっと身近に天気をとらえて欲しいと願っておられました。  
(周南市立鹿野小学校 永田啓子)